

「自転車通勤者の実態と安全意識に関する調査」 結果発表

“自転車通勤者*”600名へのアンケート調査を実施
～首都圏・近畿圏の20～40代の“自転車通勤者”、男女600名に聞きました～

社団法人 自転車協会(所在地:東京都港区、理事長:島野喜三)では、近年注目されている“自転車通勤”について、その実態と意識を調べるために、首都圏・近畿圏在住の20～40代の「自転車通勤者*」の男女600名(男性300名、女性300名)に、「自転車通勤者の実態と安全意識に関する調査」を実施しました。

*自転車通勤者 = “自宅から職場まで、週に1回以上自転車で通勤している人”を「自転車通勤者」ととらえ、今回の調査の対象としました。

= 調査結果より:主なトピックス =

- 自転車通勤を始めた目的は、「時間の節約」「お金の節約」「運動不足解消」
実感しているメリットは、上記の3つに加え、「ストレス解消」も
～ “自転車通勤で脱メタボ！”志向は、女性よりも男性に多い
- 自転車通勤者の92%が、“今後も続けたい”と回答
- 自転車通勤中の“ヒヤリ・ハット経験者”は63%
その一方、ライトもつけずに夜間走行する自転車通勤者は17%も！
～ 安全への意識は、特に20代が低い傾向に

本調査では、自転車通勤を始めた目的、また実感している自転車通勤のメリットとして、「時間の節約」「交通費の節約」「運動不足解消」が上位にあげられ、昨今の節約志向や健康志向が、自転車通勤の大きな動機となっていることが明らかになりました。

また、自転車通勤者の安全面をみると、通勤中の“ヒヤリ・ハット経験者”は63%にもものぼっている一方で、ライトもつけずに夜間走行する通勤者は17%もあり、また“安全のための自転車の整備をしない”と回答した人が、20代では28%にもものぼっています。

自転車通勤者の実に92%が“今後も続けたい”という意向を持っているだけに、安全な自転車通勤のために、交通ルールの遵守や自転車のメンテナンスへの意識と行動を、さらに高めてもらうことが必要だということを示唆する調査結果となりました。

つきましては、以下に調査レポートをご送付させていただきますので、本調査結果を是非ご活用頂きますと幸いです。

【調査結果TOPICS】

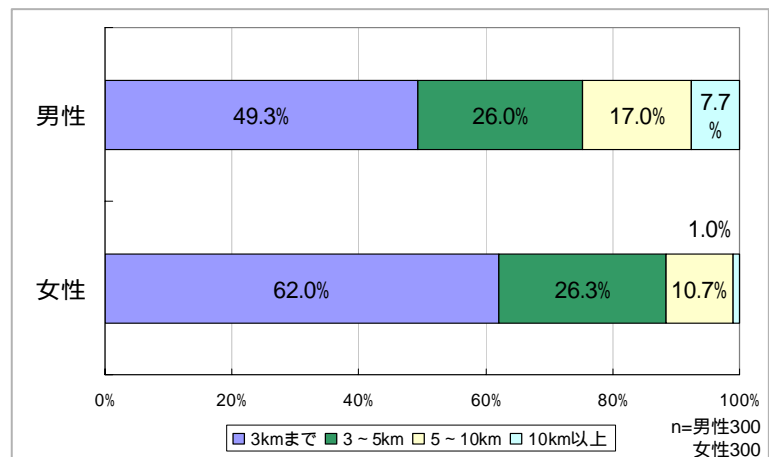
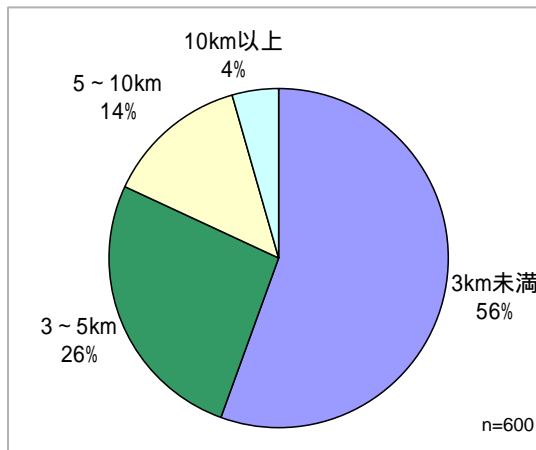
自転車通勤の実態

- ・ “片道5 km未満の近距離を、ほぼ毎日、自転車で通勤” ~ が自転車通勤に多くみられるパターン
- ・ 始めた目的は、「時間の節約」「お金の節約」「運動不足解消」
- ・ 実感しているメリットは、上記の3つに加え、「ストレス解消」
- ・ 自転車通勤者の92%が、“今後も続けたい”と回答

➤ エクササイズ志向というよりも、「節約 + 運動」という現実的な動機で、自転車通勤を“毎日の交通手段”として実践し、今後も続けたいと思っている！

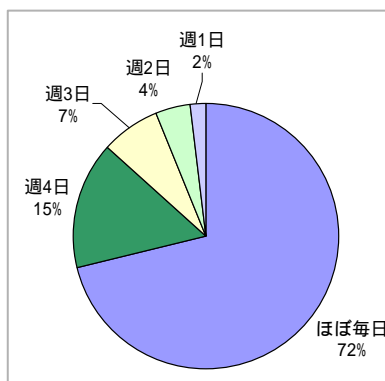
1. 自転車通勤をする距離は、片道でどれくらいですか？ SA (n=600)

- ・ 片道3km未満の“近距離通勤者”が56%と過半数
- ・ 自転車通勤者の男性の4人に1人(24.7%)は、5km以上の距離を通勤



- ・ 「片道で3km未満の距離」と回答した人が56%。通勤距離5km未満の人は全体の82%を占め、近距離の職場への通勤に、自転車を活用している人が多いことがわかりました。
- ・ 男性の中には5km以上の自転車通勤を行っている人が24.7%もあり、中距離の通勤も自転車に対応できることが伺えます。

2. 自転車通勤の日数は週に平均で何日くらいですか？ SA (n=600)

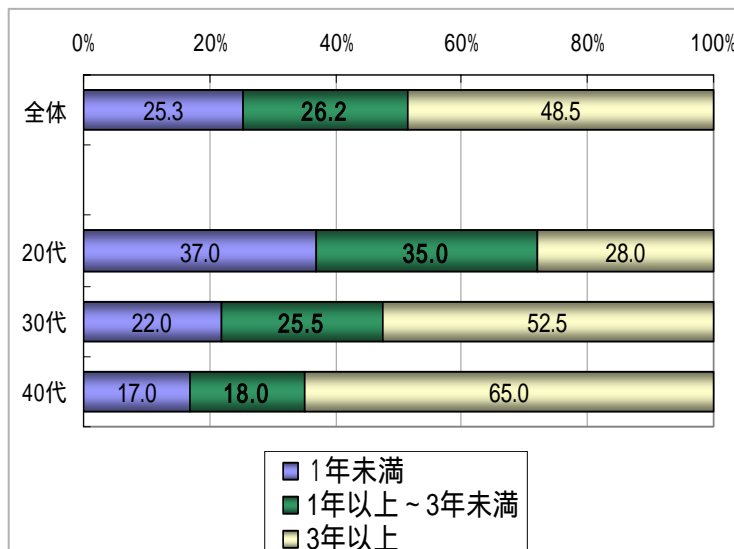


- ・ 自転車通勤の頻度は、72%が“ほぼ毎日”

- ・ 1週間のうちの自転車通勤の日数は、「ほぼ毎日」という回答が72%と圧倒的。
- ・ “週に2~3日だけエクササイズ感覚で自転車通勤”という人は少数派で、【近距離の職場までの毎日の足】として、自転車を活用している人が多いことが明らかになりました。

3. 自転車通勤を始めてからどれくらい経ちますか？ SA (n=600)

- ・ 自転車での通勤歴は、4人に1人(25.3%)が、始めてからまだ“1年未満”
- ・ 20代では37%が、ここ1年のあいだに自転車通勤を始めている
 ~ 節約志向の影響か？

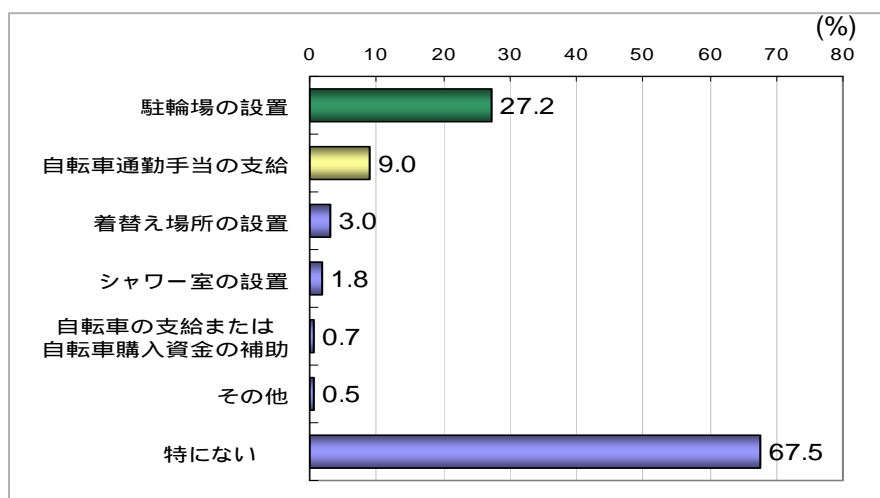


・現在、自転車通勤をしている人の25.3%は、この1年の間に自転車通勤を始めていることが分かりました。

・通勤歴は年代によっても違いがみられ、40代では3年以上の継続者が65%もいる一方、20代はここ1年の間に自転車通勤を始めた人が37%と、年代別で最も多くなっています。

4. あなたの職場において、自転車通勤を推奨する制度はありますか？
 その内容を下記からお選びください。 MA (n=600)

- ・ 職場の自転車通勤サポートは、駐輪場あり:27%、自転車通勤手当あり:9%
 ~ サポート制度は、まだ途上？



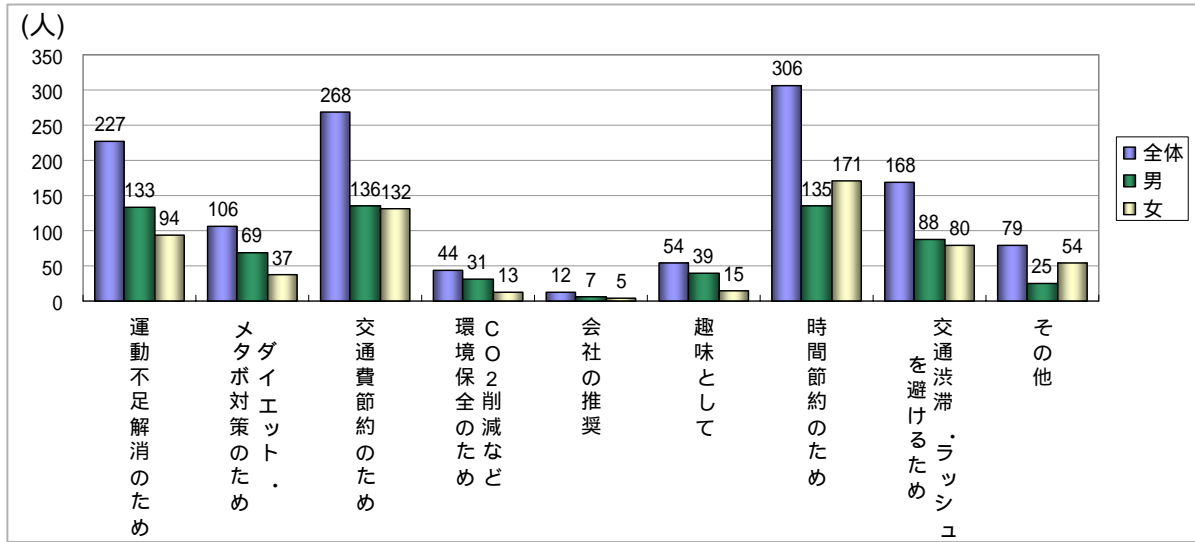
・27%の人の職場で駐輪場が設置されており、9%の人が「自転車通勤手当の支給がある」と回答。とはいえ、「特になし」人が67.5%と圧倒的で、今後、企業の自転車通勤推奨の動きは広がるのか、注目されるどころです。

・その他、シャワー室/着替え室が設置してある企業も、5%の人の職場で見られました。

5. 自転車通勤を始めた目的はなんですか？

MA (n=600)

- 始めた目的、ベスト3は **時間節約** **交通費節約** **運動不足解消**
 “ダイエット・メタボ対策”で自転車通勤をする意識は、男性の方が高い！



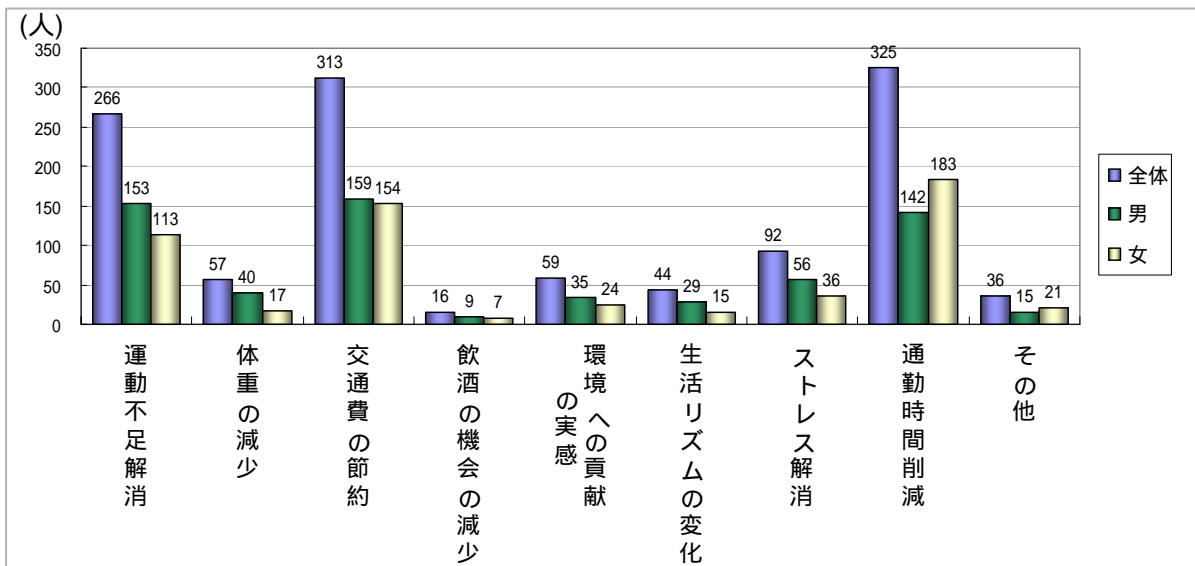
・自転車通勤を行う目的の上位3つは、「時間節約」「交通費節約」「運動不足解消」となりました。自転車通勤は、**近年の節約・健康のニーズにあった通勤スタイル**だということがわかります。

・「ダイエット・メタボ対策のため」との回答は意外にも女性より男性が多く、「環境保全のため」という回答も、男性の方が多い結果となっています。男性の目的は「趣味として」「環境保全のため」等、女性に比べて多岐にわたっていますが、女性は「時間節約、交通費節約」が圧倒的。女性の方がやや実利を求める意向が高いのかもしれませんが。

6. 自転車通勤を実践して、感じたメリットはなんですか？

MA (n=600)

- 実感しているメリット、ベスト3は **時間節約** **交通費節約** **運動不足解消**
 4位は「**ストレス解消**」



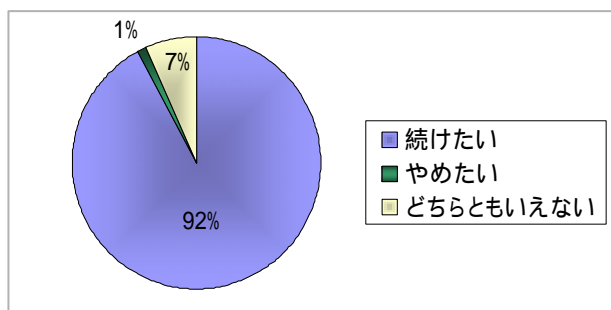
・実際に自転車通勤を行って感じているメリットの上位3つは、「通勤時間削減」「交通費節約」「運動不足解消」という、目的とまったく同様の結果となりました。次に多かった回答は「ストレス解消」で、15%の人がメリットとして「実感」しています。

・また男性では、「運動不足解消」「ストレス解消」「体重減少」など、自転車通勤を運動のように捉えてメリットを実感している人が多い傾向にありました。

7. 今後も自転車通勤を続けたいと思いますか？

SA (n=600)

- ・ 自転車通勤者の92%が、“今後も続けたい”と回答 - 継続意向は非常に高い



・これらのメリットを日々実感している故か、92%の人が「今後も自転車通勤を続けたい」と回答しており、「やめたい」という人は、わずか1%という結果でした。

自転車通勤者の“自転車の選び方”

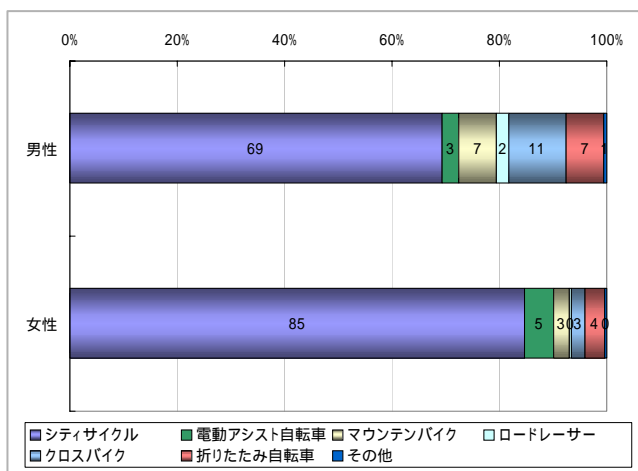
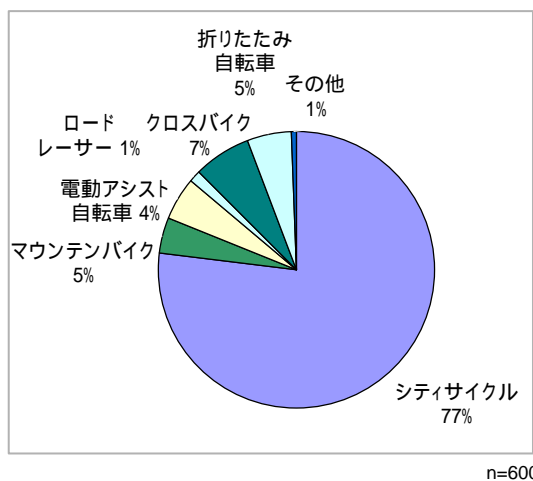
- ・ 通勤利用の自転車は、“20,000円未満の日常的なシティサイクル”が多数派
- ・ 20代男性では、10万円以上の自転車の利用者も8%
- ・ 安い自転車を気軽に乗り換えるより、“吟味したものを長く使いたい”派が63%と多いものの、購入の際、最も重視する点は「価格の安さ」

➤ 節約のために自転車通勤をする人が多いためか、価格の安さが重視ポイント
男性の方が、高価格帯の自転車を使用している傾向に

8. 現在通勤で主に使用している自転車のタイプはどれですか？

SA (n=600)

- ・ 自転車通勤者の77%が、日常的な“シティサイクル”で通勤
人気の電動アシスト自転車は、意外にもまだ少数派

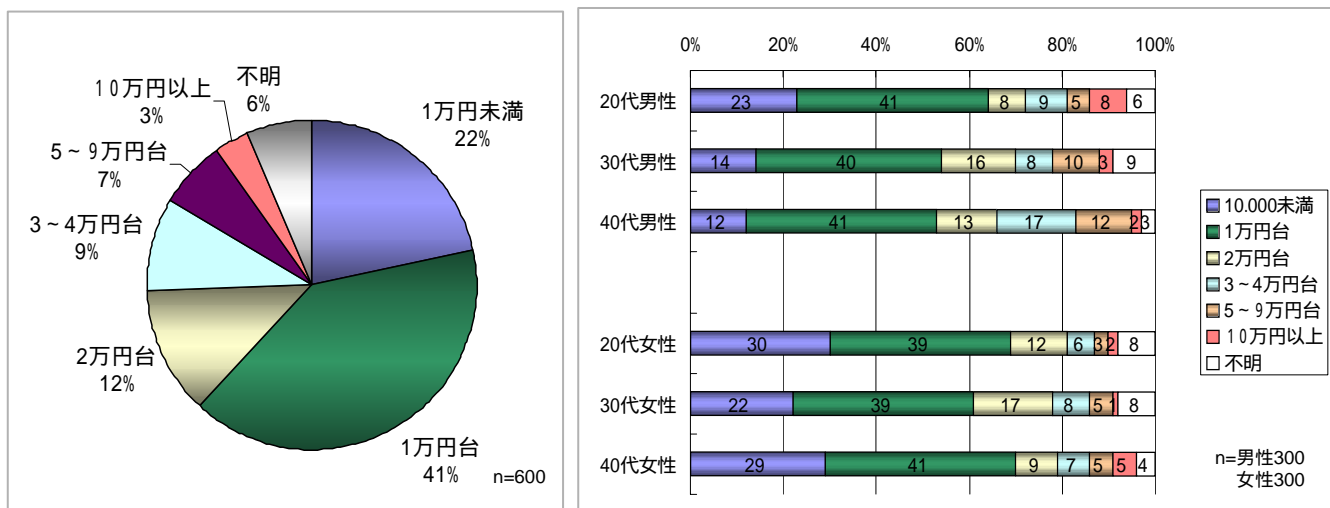


- ・ 全体では77%と、多数の人がシティサイクルを利用していることがわかります。
- ・ 男性では、クロスバイク(11%)、マウンテンバイク(7%)、折りたたみ自転車(7%)等、機能性を重視して選ぶ人が女性に比べて多い傾向がみられます。電動アシスト自転車の使用率では女性の方が勝りましたが、女性でもわずか5%の使用率にとどまりました。

注：調査では、自転車のタイプ分類の質問の際に、以下のような解説を補足しています。
 ・シティサイクル(日常用自転車、ママチャリと呼ばれるタイプもこれに含む)
 ・マウンテンバイク(オフロード用自転車)
 ・ロードレーサー(公道での競技を想定した自転車)
 ・クロスバイク(マウンテンバイクとロードレーサーの中間の自転車)

9. 現在通勤で主に使用している自転車の価格はいくらですか？ SA (n=600)

・ 通勤で使用している自転車の価格は、63%の人が”20,000円未満“
20代男性では、8%もの人が”10万円以上“の自転車で通勤している！

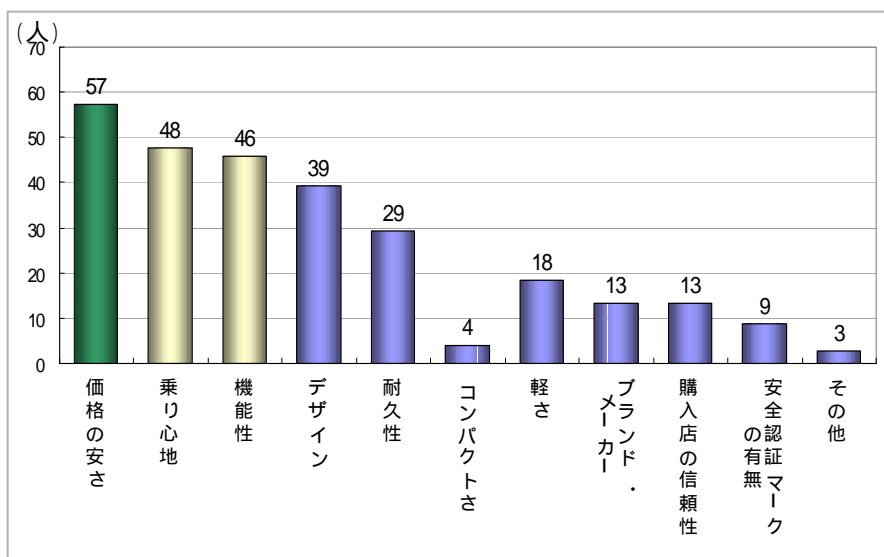


・ 全体では、「20,000円未満の自転車」を使用している人が63%と大半を占め、手頃な価格の自転車が使われていることが分かりました。

・ 男女別でみると、男性の方が概ね高価格帯の自転車を使用していることが分かりました。男女・年齢別でみると、40代男性が最もお金をかけており(31%が3万円以上の自転車を使用)、また20代男性の8%が「10万円以上の自転車」で通勤していると回答しています。自転車にこだわる人は、やはり男性が多いようです。

10. 通勤に使用する自転車を選択する際、重視するポイントは何ですか？ MA (n=600)

・ 自転車購入の際、もっとも重視するのは「価格の安さ」。
・ 乗り心地/機能/デザイン等のスコアも高い
~やはり自転車に期待されているのは、“不況対策”？



・ 通勤用自転車を購入する際の重視ポイントは、「価格の安さ」が57%で1位となりました。次いで、乗り心地48%、機能性46%と、機能面を重視する傾向がみられました。

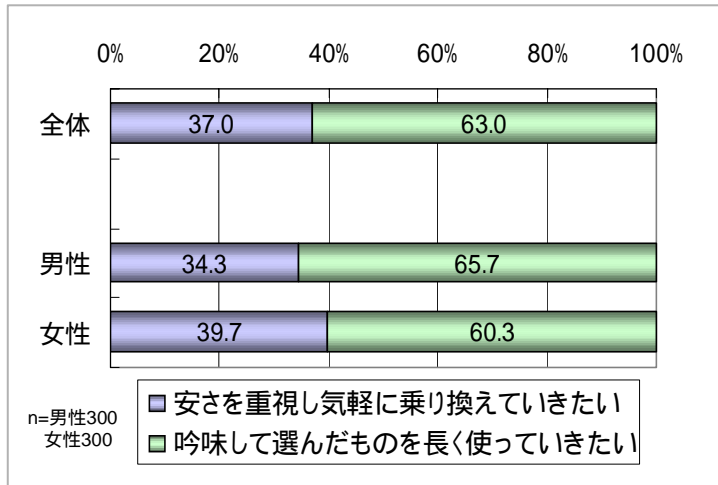
・ ブランド、メーカーや購入店舗へのこだわりも多くはなく、また「安全認証マークの有無」との回答とした人は9%にとどまり、日々自転車通勤をしている人でも、自転車の安全性への意識は高くないことが伺えます。

1.1. 自転車の買い替え、乗り換えについてどう考えていますか？

いずれか近い方を選択してください。

SA (n=600)

- ・ 自転車の乗り換えは、“安く買って気軽に乗りかえる”よりも、“長く使っていきたい”派の方が多(63%)



・重視ポイントは「価格の安さ」、かつ実際にも20,000円以下の手軽な価格の自転車を使用している人が圧倒的に多い一方、今後の自転車の買い替え、乗り換えに関しては、安さよりも「吟味して選んだものを長く使っていきたい」という意見が63%と、多くみられました。

・“そうは思うものの、実際の生活では安さを重視とならざるを得ない”～ということなのかもしれません。

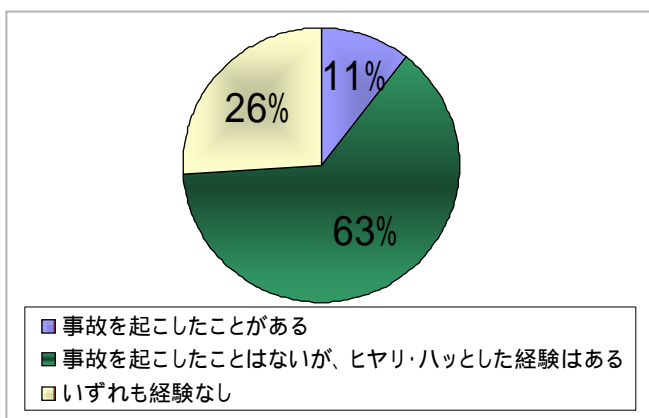
自転車通勤者の安全意識について

- ・ 自転車通勤中の“ヒヤリ・ハット”体験をもつ人は63%！
- ・ 夜間走行時、特に何もしない(ライトをつけない)人は17%
- ・ 自転車の整備は、“タイヤの空気入れ”は73%の人が実践してるものの20代では、“何もしない”人が28%も！

➤ ハッとした経験は多数の人が持っているものの、特に若い世代では安全のための意識(ルール遵守&自転車のメンテナンス)が希薄な傾向

1.2. 自転車通勤時に事故を起こしたことはありますか？ SA (n=600)

- ・ 自転車通勤中の“ヒヤリ・ハット”経験をもつ人は63%！



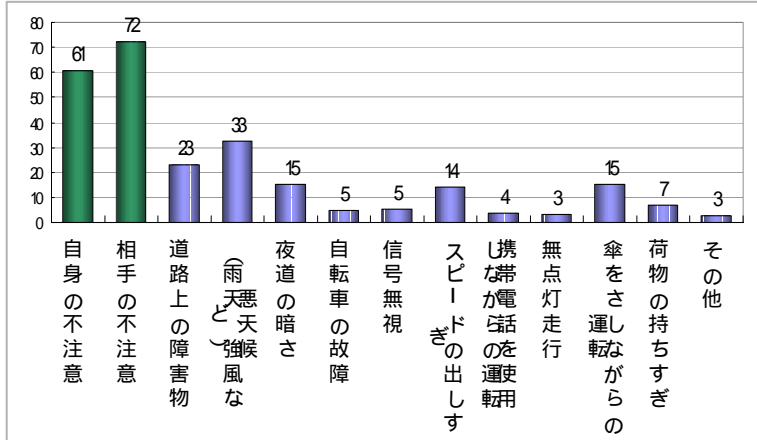
・ 自転車通勤時に何らかの事故の経験がある人は、今回調査を行った人のうち11%。

・ 事故経験はないが「ヒヤリ・ハット」した経験がある人は、63%にもものぼっています。

13. 「事故を起こしたことがある」「事故を起こしたことはないが、ヒヤリ・ハットした経験はある」と答えた方は、その原因をお選びください。

MA (n=444)

・ 事故や“ヒヤリ・ハット体験”の原因の多くは、「不注意」と「悪天候」



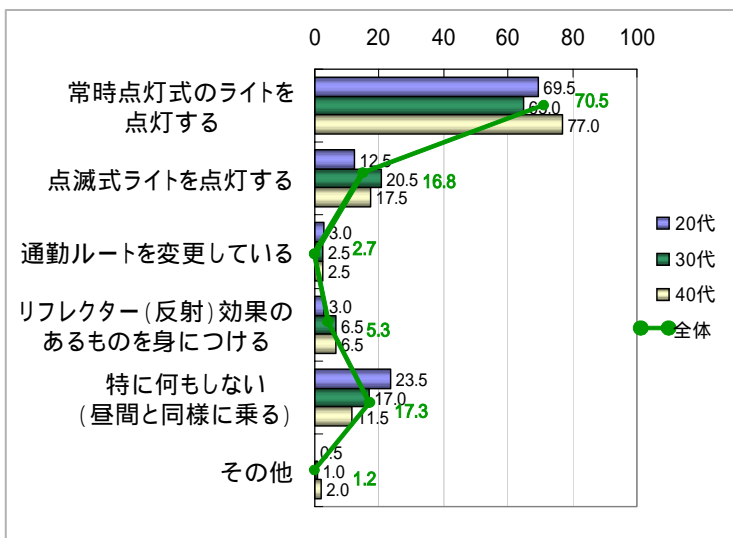
・事故や「ヒヤリ・ハット体験」の原因としては、相手・自身の不注意が多くあげられています。

・その他、天候や道路上の障害、夜道などの環境によるもの、スピードの出しすぎや、傘差し運転などのマナー違反によるものも、事故の原因となるようです。

14. 夜間に走行する際に、どのような対応をしていますか？

MA (n=600)

・ 20代の23%が、夜間にライトをつけずに走っている！



・夜間走行時、「特に何もしない」人は17%にものぼり、特に20代では、23%の人がライトをつけずに走行していることがわかりました。

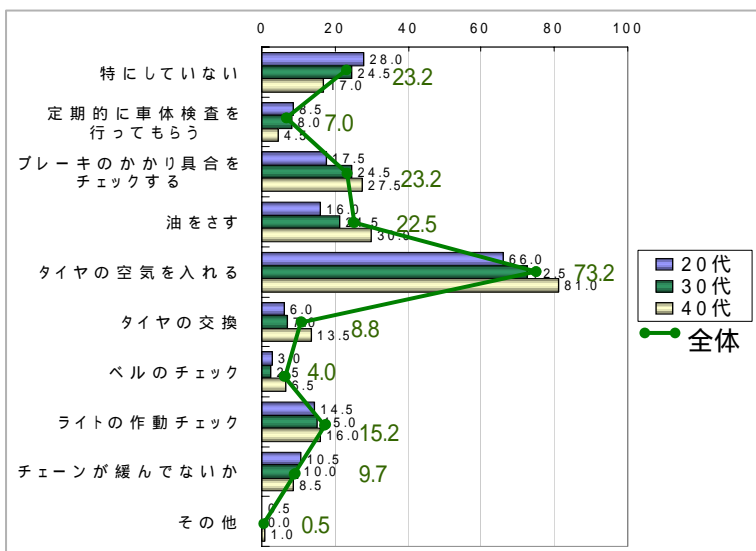
・何らかの形でライトを点灯している人が87%と大多数とはなっているものの、本来、全員がつけなければならない「常時点灯式ライト」をつけていると回答した人は71%にとどまりました。

* 最近よく見かける「点滅式ライト」のみをつけて走行することは、交通ルール上望ましくなく、本来は、常時点灯用ライトと併用することが必要です。

15. 安全のために、自転車の整備を実践していますか？

MA (n=600)

・ 20代の28%が、「自転車の整備をしていない」と回答



・安全のための自転車の整備については、「タイヤの空気を入れる」ことが最も多く、73%の人が実践しています。一方、「タイヤの交換」や「定期的な車体検査を行ってもらう」ことは、1割以下の人しか行っていないことがわかりました。

・一般的に、年代が若くなるにつれ、自転車の整備を怠る傾向にあり、特に20代は安全意識が低いことが伺えます。

～ 調査概要 ～

【調査対象と回収サンプル数】

- ・自宅から職場まで週1回以上、自転車通勤をおこなっている20代～40代の男女600人
対象はフルタイム勤務者のみ(パートタイム勤務者は調査対象から除外)

【調査地域】 首都圏・近畿圏

サンプル数は、各エリア(首都圏/近畿圏)・各年代(20代/30代/40代)・性別(男/女)で均等に設定

【調査方法】 インターネット調査(ネット調査会社の登録モニター活用)

【調査期間】 2008年11月27日(木)～11月29日(土)

【主な調査項目】

- ・自転車通勤に関する実態
- ・自転車通勤の目的・メリット
- ・自転車通勤に関する安全意識 他

自転車協会について

社団法人自転車協会は、自転車の製造・輸入に関わる企業、自転車に関わる団体・個人により構成され、自転車の安全性と耐久性の向上を図り、利用者に”安全で長持ちする自転車”を提供すること、そして循環型社会に対応できる製品を提供することを旨とした活動や事業を行っています。

主な活動としては、自転車の安全性向上と環境負荷物質使用削減のための規格(BAAマーク制度)の作成と普及の推進、資源の有効利用に関する調査研究などを実施しており、これらの活動を通じて、長期的な視点では、自転車の利用促進、環境保護の推進、国民の健康促進への寄与を目指します。



BAAマーク